

活力と賑わいのある

まちづくり 4万人都市復活を目指して



白石市長
風間 康 静

新年明けまして
おめでとうございます

市民の皆さまには、お健やかに新春をお迎えのこと、お喜び申し上げます。昨年7月の台風4号および9月の台風9号による大雨で大規模な災害が発生し、土砂崩れにより3集落が孤立、サッカー公園が使用不能になるなど、市内各地で河川、道路などの施設や農作物が甚大な被害を受けました。被害を受けられた皆さまに心からお見舞いを申し上げます。

さて、マスクミでは大都市と地方の格差が大きく取り上げられ、地方自治体の財政格差をはじめ所得格差、就業をよろしく願います。

本市では、平成18年6月に企業立地の促進や地域雇用の拡大を図るため、企業立地促進条例を制定しました。しかしながら、昨年は企業の撤退が相次ぎ、雇用への影響と産業の空洞化が懸念されています。そのような中、昨年、東京で開催された宮城県企業立地セミナーにおいて、企業などにトップセールスを行い、本市の環境や交通条件の良さを推奨してきました。宮城県内においては、セントラル自動車の誘致成功により、3,000億円ともいわれる経済効果もたらされると試算されています。全国の自治体が激しい誘致競争を行っている状況ではあります。本市の地域振興を図る上でも企業誘致は最大の懸案事項と位置付け、宮城県と連携しながら精いっぱい努力をしていきます。

また、定住人口の増加を図るため制定した定住促進奨励金については、昨年11月末現在で12件339万円の実績があり、このうち、市外からの転入者は3件となっています。今後も奨励金制度を市内外にビジュアルし、定住促進と地域の活性化を図っていきます。

格差、医療格差などが日々報道されています。本市の財政運営は、三位一体改革の影響から地方交付税が大幅に減額され、全国の多くの地方都市と同様に厳しい状況となっています。第2期地方分権改革が進められ、真の地方自治を確立するには、安定的な財政運営の確保が不可欠です。安心して市民が生活できるよう、宮城県市長や東北市長会を通して、国に地方と大都市の地域間格差の是正を要望しているところですが、改善にはまだまだ時間がかかると思われまます。しかし、市民生活は日々進行しており、さまざまな課題に待ったなしで取り組んでいかなければなりません。

厳しい財源の中ではありますが、2008年心新たに、昨年提唱した「4万人都市復活大作戦」による各種事業を確実に実行し、次世代に誇りを持って引き継ぐことができる「こころ豊かなふるさと白石」の実現に向けて全力を尽くしていく所存です。

本市が取り組む今年最大の事業は、10月から12月に実施する大型観光宣伝事業「仙台・宮城デスティネーション



▲福岡小学校の放課後子ども教室

そのほか、都市計画道路「沖の沢郡山線」の早期完成を目指すとともに、市民バスきやっするくんの運行、福祉の郷土の推進、生涯学習、生涯スポーツの振興、安全安心なまちづくりとしての安心メールの充実や自主防災組織の設立支援、しろいしエコプロジェクトの推進などにより市民福祉の充実を図っていきます。

本年も、白石市の限らない発展に向け、「共汗」「共学」「共生」をモットーに、「市民総参画によるふるさと共創」を目指し、精いっぱい取り組んでいきますので、今後とも皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。結びとなりますが、この1年が皆さまにとりまして明るく幸せな年でありますよう心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつとします。

キャンペーン」です。これに先立ち、昨年10月・12月に実施したプレキャンペーンでは、白石城や中心市街地の「すまいるひろば」などを中心に、まるごとうーめんまつり、こども白石城、大道芸人大会、まちなか音楽祭など、住民が主体となった多彩なイベントが行われ、プレキャンペーンを盛り上げました。



▲本年10月からが本番です！

このほか、JRが企画したびゅうバス「食べばす号」や「駅からハイキング」などは首都圏からの参加者も多く、好評を得たところです。今後、プレキャンペーンの実績をしっかりと検証し、白石の自然・歴史・文化などの魅力を広くアピールしながら、魅力的な観光地として多くの方々に来ていただけるよう、取り組みを進めていきます。これを成功させることで、観光交流人口が増えることが見込まれ、結果として市内消費額も増加し、地域活性化につながるものと確信しています。地域



白石市議会議長
佐藤 英雄

市民の皆さま、
明けましておめでとうございます

ご家族おそろいで輝かしい新年をお迎えのこと、お喜び申し上げます。日々市議会に温かいご理解と絶大なご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

昨年は、市政の基本理念である「共汗・共学・共生」による心豊かなふるさと白石の実現に向けて、市民の皆さまと喜びを分かち合う『赤ちゃん誕生応援事業』の創設、子育て支援事業の『休日保育』の実施、70歳以上の高齢者に『ほっとゆきやするパス』の交付、活力と賑わいのあるまちづくりを推進するための『白石市定住促進奨励金』の創設、越河地区の農業集落排水処理施設「越河クリーンセンター」の稼働、南中学校校舎改築工事の開始、JR白石駅前の公衆トイレ完成など、多くの事業が実施され大変有意義な年でした。これもひとえに市民の皆さまからのご支持のたまものと思います。

また、市議会では、昨年4月の選挙から議員定数を3名削減し、21名の議員が誕生しました。市議会だよりの発

活性化のきっかけとして、市民総ぐるみの取り組みをお願いします。次に、宮城県において新しい子育ての支援事業として、新年度から「宮城っこ子育て応援パスポート事業」がスタートします。この事業は、15歳未満の子どもがいる世帯にパスポートを交付し、このパスポートを協賛店舗に提示することにより各種優待が受けられるものです。昨年1月に県南4市9町で構成する宮城県南サミットにおいて本市が提案し、宮城県知事に導入を要望、実施の運びとなりました。



▲昨年8月本市で開催された宮城県南サミット

本市としては、この事業の提案市として積極的に取り組んでいきます。近々、協賛いただける店舗や事業所の募集が開始されますので、店舗の特長を活かし、いろいろな特典を設定いただければと思います。多くの店舗が魅力的な特典を設定することで、各店舗への誘客と中心市街地の活性化が図られると考えていますので、ご協賛

行および市ホームページ内の「市議会のページ」で会議録を公開するなど、市民に開かれた分かりやすい議会づくりと議会の活性化に努めるとともに、都市計画道路「沖の沢郡山線」事業推進の要望活動など、市民が豊かで安心できるまちづくりと、市政発展のために、21名の議員は議会でも頑張っていました。

「東北の景気は緩やかながら着実に回復が続いている」と報じられているものの、地域経済や業種間の格差は依然残っているような状況にあります。本市では三位一体改革の影響で厳しい財政運営を強いられています。また、「少子化による総人口の減少」や「福祉・医療・介護」、「農業政策」などの重大な諸問題があり、国・地方とも新たな対応が求められています。

このような厳しい社会状況の中、市議会では、今後とも市政の諸課題に対し、的確かつスピーディーに対応すべく議員全員のパワーを結集し、さらに議会の活性化を推進して市民が「安全・安心に暮らせるまちづくり」にしっかりと対応するため、議員一同決意を新たにし、市民の皆さま一人ひとりが幸せを感じ、この議員を選んで良かったという議会運営を行います。

市民の皆さまにおかれましては、今後とも格別なご協力とご支援をいただきますようお願い申し上げます。本年も、皆さまにとりまして幸多き年でありますよう、議員一同、ご祈念申し上げます、年頭のごあいさつとします。